

**委員会視察 REPORT**

**企画総務委員会視察報告**

日程・視察先	参加 委員数
5月8日 兵庫県淡路市	8人
5月9日 兵庫県伊丹市	
報告者 企画総務委員長 二木 孝之	

**兵庫県淡路市**

**「リース方式による庁舎建設検討の過程」について**

淡路市では、平成17年の合併に向け、新市まちづくり計画で合併後に合併特例債で本庁舎を建設することとし、それまでの仮設庁舎を5年リースすることに決定した。

その後、厳しい財政状況のため、本庁舎建築を断念し、リース残額を前倒して仮設庁舎を買い取ったが、合併10年を迎えるにあたり、現庁舎の抱える諸問題を解決し、住民サービスの向上や行政効率を一層高めるため新たに本庁舎を増築することとなった。当初は50～60億円程度で庁舎を集約するコンセプトが決められていたが、国が決めた財政指標値はそれらを早期に完成できる値ではなかったため、ソフトランディングの手法を選択し、およそ10年で2号館が完成し、当初の予定額に対し5分の2程度の経費でほぼ当分の間の姿を形成した。

**兵庫県伊丹市**

**「公共施設マネジメント基本条例」に**

ついて

伊丹市は、平成26年に建物施設やインフラ施設の老朽化・更新問題から、施設の今後のあり方について基本的な方向性を示す「公共施設等総合管理計画」を策定した。

公共施設マネジメントは長期的かつ継続的な取り組みが必要となる。しかし、社会情勢・政策転換・人事異動等そのときのさまざまな要因によって、「公共施設等総合管理計画」が風化してしまうおそれがあった。

そこで、継続性を保つためには法的根拠が必要であるという考えから、公共施設マネジメントの条例化を検討した。平成28年には条例を施行し、基本的な理念や最低限の事務作業などの明文化や、基本計画の策定の根幹となる総量削減を規定した。

現在は市民との情報共有の取り組みとして、マンガ・パンフレット・出前講座など対象者に応じた媒体で市民に情報発信をしている。



**文教厚生委員会視察報告**

日程・視察先	参加 委員数
5月17日 北海道札幌市	10人
5月18日 北海道札幌市	
北海道千歳市	
報告者 文教厚生委員長 浜中 のりかた	

**北海道札幌市**

**「白石区複合庁舎」について**

札幌市では、昭和47年に建築した旧白石区役所の老朽化によって、施設維持が困難になった。また、旧区役所は公共交通でのアクセスが不便という課題もあった。そこで、移転新築の用地確保等の要望が町内連合会等から出され、市議会でも議論があった。その後、市が白石駅近くの用地を先行取得し、区民ワークショップや複合庁舎整備に関する検討会等を経て、白石区複合庁舎整備基本計画を策定し、区役所、保健センター、区民センター等の複合庁舎基本方針を整備し、平成28年度より白石区複合庁舎の供用が開始された。駅の近くに複合庁舎を建設したことによって、市民の利便性が飛躍的に向上した。

**「わくわくホリデーホール」について**

札幌市では老朽化して閉館となった旧札幌市民会館の跡地に札幌市民ホールを建設した。その後、ネーミングライツを導入し、愛称を「わくわくホリデーホール」とした。当初は

暫定的な施設としての利用を予定していたため、費用が安く済むリース方式によって建設された。平成26年度末でリース契約は終了し、市に無償譲渡された。札幌市の文化施設を整備する計画の中で、取り壊す予定だったが、耐震等の問題がないので現在も使用している。結果、市民の利用率は非常に高く、全国からリース方式の先駆けとして注目されている。

**北海道千歳市**

**「ちとせ版ネウボラ」について**

千歳市では平成26年度から「子育てするなら、千歳市」をキャッチフレーズに妊娠・出産から子育て期(おおむね18歳)までの切れ目のない支援を提供し、子育て世代が幸せを実感できる「子育てのまち」を目指して来た。3年間で38事業を開始し、平成28年からちとせ版ネウボラを開始した。これは全ての妊婦、母子、子育て家庭に対して、直接のアドバイスや援助の機会を確保し、生まれ来る子どもたち一人一人の幸福を実現しますという理念を持つ、子育て政策であり、我が市にも大いに参考になった。



**建設環境委員会視察報告**

日程・視察先	参加 委員数
7月4日 愛知県岡崎市	9人
7月5日 愛知県名古屋市	
愛知県知多市	
報告者 建設環境委員長 森 信一	

**愛知県岡崎市**

**「中央クリーンセンター運営事業」について**

岡崎市では、環境への負担が少なく持続的発展が可能な循環型社会の形成を目指している。環境共生都市の実現に向けた取り組みについて視察を行った。

ガス化溶融炉では、発生する熱をボイラーで回収し、蒸気タービン発電機により高効率の発電を行っている。高温溶融処理されたごみはスラグ・メタルにされ、アスファルト合材や建設機械のおもりとして有効利用している。毎日排出されるごみの処理は、自治体共通の課題である。ガス化溶融処理により最終処分量を低減することが可能であること。また、ごみ処理の過程において発生するエネルギーを電気に変えて再利用する技術などを学ばせていただいた。スラグなどの資源化については、当市でも似たような取り組みをしているが微妙な違いもあり参考になった。

**愛知県名古屋市**

**「大江破碎工場運営事業」について**

名古屋市では、不燃ごみ、粗大ごみを焼却、溶融施設で搬入する前段階でハンマーによる破碎・科学を応用した機械選別処理を行っている。名古屋市唯一の粗大ごみ処理施設について視察を行った。

**愛知県知多市**

**「朝倉駅周辺整備事業」について**

知多市では、都市計画マスタープランで朝倉駅周辺の整備を行うとしている。本市でも、都市計画道路3・4・24号田無駅南口線交通広場の整備を進める上で駅前周辺整備について視察を行った。

知多市では、行政だけではなく、市民ワークショップを開いて利用者目線で多様なアイデアが提案されている。駅前の整備事業は、本市でも進められているが、現状では課題点も多くある。本市でも、今後の駅前広場の整備を進める上で参考していく必要がある。



**議会運営委員会視察報告**

日程・視察先	参加委員数
7月12日 滋賀県大津市	9人
7月13日 兵庫県加古川市	委員外議員 8人
報告者 議会運営委員長 佐藤 公男	

**滋賀県大津市**

**「議会BCP」について**

大津市議会が策定している、大津市議会BCP(業務継続計画)の概要を伺うとともに、訓練内容や、災害時に発動した経験から課題、見直しについて視察を行った。

視察内容として、議会は合議機関であることから、意思決定に時間がかかり、議事運営以外の指揮命令系統がなく執行権がない議会の弱み、議会は災害時の現場対応責任者でない立場、環境にあり、目前の業務に忙殺されることなく、一歩先を見た復旧・復興議論に専念できる議会の強み、災害時の議会と執行部の役割、責任について説明を受けた。特徴として、市の災害対策本部設置後、速やかに議長、副議長、各会派代表者で構成する議会対策会議を設置し、議会としての意志決定前の事前調整をする。市(災害対策本部)との関係として、議会は自らの役割を踏まえ、災害情報の迅速な収集等に当たり議会内の体制整備とあわせて市との協力・連携体制を構築している。こう

した取り組みを本市としても検証し、災害時における体制を構築していきたい。

**兵庫県加古川市**

**「議会事務事業評価」について**

加古川市議会は、平成27年度から議会による事務事業評価を実施し、翌年度予算への提言を行っている。

事業内容として、9月定例会中の各常任委員会で、決算審査の一環として、平成27年度は市の公開事業評価と同じ15事業、平成28年度からは各会派で候補事業を抽出し、議会運営委員会で選定した、各常任委員会1事業を実施している。

評価方法は、事業に対する理事者側への質疑後、事務事業評価シートに記載し、委員間討議を経て評価結果を委員会としてまとめ、委員長は委員会審査報告及び事務事業評価表を作成し議長に提出する。各常任委員会の評価結果に基づき、決議案を提出している。

